

産業建設常任委員会 意見交換会報告

それでは、去る11月4日開催の白山市国際交流協会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は白山市国際交流協会の福田会長を初め、中国出身の外国人住民を含めた12名の皆様が出席され、白山市の国際交流と多文化共生社会について、意見交換をしました。

白山市国際交流協会は、旧松任市時代の昭和62年に設立され、国内外の都市との親善友好を基調として、教育、文化及び産業の交流を図り、市民間の相互理解、世界平和に貢献することを目的としています。

それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

1点目、国際交流協会は、オーストラリア・ペンリス市、中国瀋陽市およびイギリス・ボストン町の親善友好都市と、中・高生のホームステイ交流を実施しており、異国の地で学び、生活した、中・高生たちは、価値観が大きく変わり、海外を視野に将来を見据えて意欲的に英語を学ぶなど、グローバルな人材の育成に貢献されています。委員からは、派遣された学生に対し、貴重な経験を生かすためにも、国際交流に関するボランティアの協力や情報提供など、フォローアップの充実に向けた意見がありました。

2点目、国際交流協会は、外国人住民に日本語指導や各種イベントなどを企画運営し、日本人住民との交流、相談支援に取り組まれています。中国人の技能実習生からは、来日時は心細かったが、活動に参加することで日本語が上達し、多くの友人ができ、生活が明るくなったなど、国際交流協会が心の拠り所になっているとのことでした。本市における外国人住民は、10年前と比較して約2倍に増加しており、引き続き細やかな支援を行うために日本人サポーターの拡大に努めていきたいとの意見がありま

した。また、活動内容を協会広報紙やSNSなどで発信されていますが、より多くの市民へ周知に努めていきたいとの意見があり、委員からは執行部に対し、広報はくさんの掲載など効果的な情報発信を促していきたいとの意見がありました。

3点目、国際交流協会は、松任文化会館のオーバブリッジにある国際交流サロンを拠点に活動しておりますが、非常に手狭な状況とのことであり、日本語教室などの各種講座をパネルで仕切って行っているため、隣から声が聞こえて進行に支障を来していることや、着物の着付けや茶道体験などは大変好評ですが、着物や道具などの収納スペースが限界ということでした。この度の松任文化会館の改修に合わせて、国際交流サロンの拡張と機能の充実をお願いしたいとの意見がありました。

4点目、公民館からの外国語講座の開催や保育園などからの外国人の派遣、文書翻訳等の依頼が多くありますが、専従の外国人職員がいないので、対応が困難な状況ということです。一般市民との国際交流と本市の国際化の推進を図るため、国際交流員の配置をお願いしたいとの意見がありました。

5点目、国籍や民族などの違いを互いに認め合い、地域の構成員として、ともに生きていく多文化共生社会の推進に向けて、地域の祭りや文化祭などに外国人の参加を調整するなど、地域住民とのさらなる融和に努められています。出席された外国人住民からは、市役所などの公共施設におけるWi-Fi環境の整備や、自転車で移動される方が多いので、外国語を標記した看板や標識などの充実、夜道でも安全に移動できるよう道路環境の整備など、外国人住民の目線に立ったまちづくりの提案もありました。

最後に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本への注目度が増し、多くの外国人が本市にも訪れることが見込まれます。執行部におかれては、きょうの報告内容を踏まえ、本市の国際化へのより一層の進展に向けて、日本人住民との交流や語学学習、相談支援など多岐

にわたって活動している国際交流協会にさらなる支援をしていただきたいと思います。

以上で意見交換会の報告を終わります。